

データを読むのは
学問の基本！

優秀答案発表です。

問 2

問 1 で解説した以外の 2 つのデータを選び、
2 つを関連づけて、
何らかの推論を組み立ててください。

肉と体力 M.N.さん

2

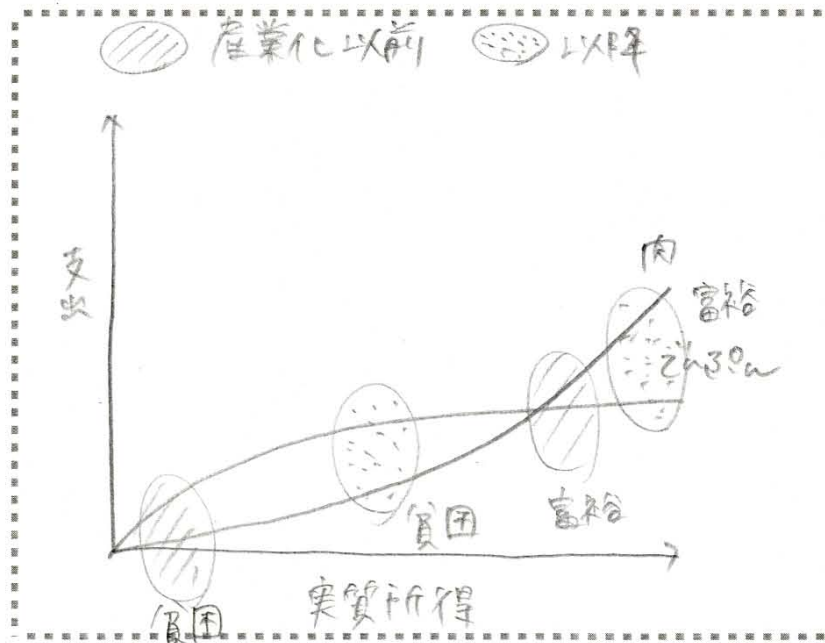
と

7

問2 組み合わせて語る

上で解説した以外の2つのデータを選び、2つを関連づけて、何らかの推論を組み立ててください。

産業化以前は、貧困層は肉はもちろんでんぷんも十分ではなかったため身長・平均寿命に大きな差が存在した。産業化以降は、国全体の食の状況は向上し、貧富の差はあまり以前ほどではなくなった。



肉と体力 2 Y.K.さん

2

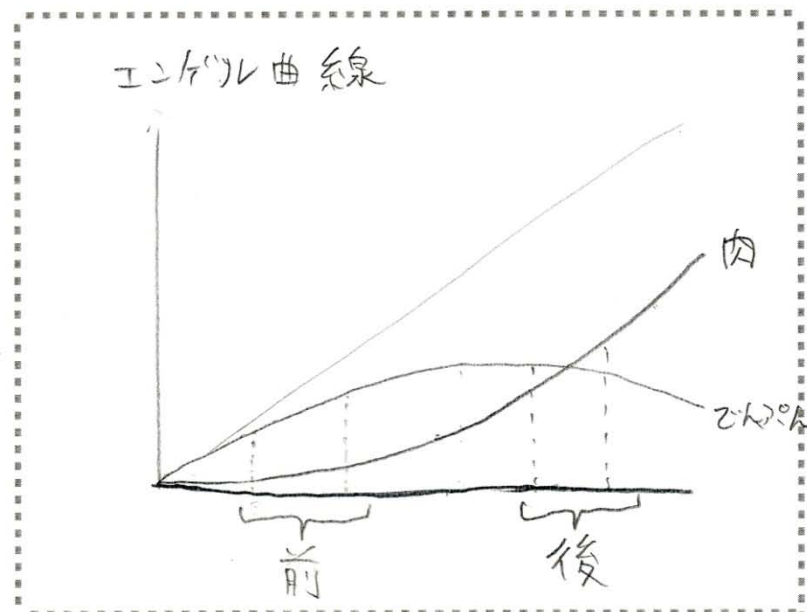
と

7

問2 組み合わせで語る

上で解説した以外の2つのデータを選び、2つを関連づけて、何らかの推論を組み立ててください。

7の図を見ると、革命以前と以後で、
身長差が縮まっている。これは、全体がエンゲル
曲線が右にシフトしたことで縮まっていると考えられ
いきすぎた肉の偏食が、体格に良い影響を
与えないことが分かる。



問2 組み合わせて語る

2

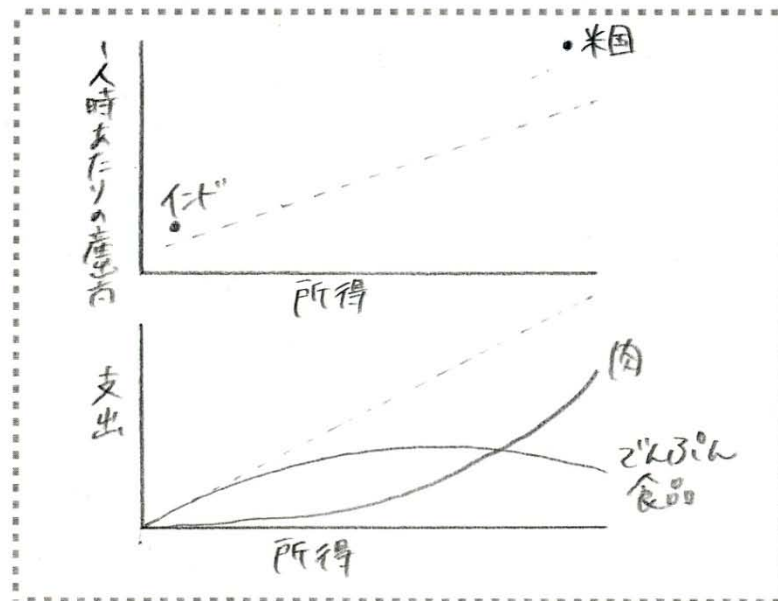
と

9

上で解説した以外の2つのデータを選び、2つを関連づけて、何らかの推論を組み立ててください。

アメリカ人 → 所得高い → 肉がたかじん
 買える → 栄養たっぷり(脂肪もたんぱくも)
 → たかじん働か(せもやせない) → 生産高①

インド人 → 所得低い → 肉はあんまり買えない
 → 栄養不足 → ね!今日は仕事休むか!
 → 生産高②



きれいなグラフコラボ2 R.Y.さん

問2 組み合わせさせて語る

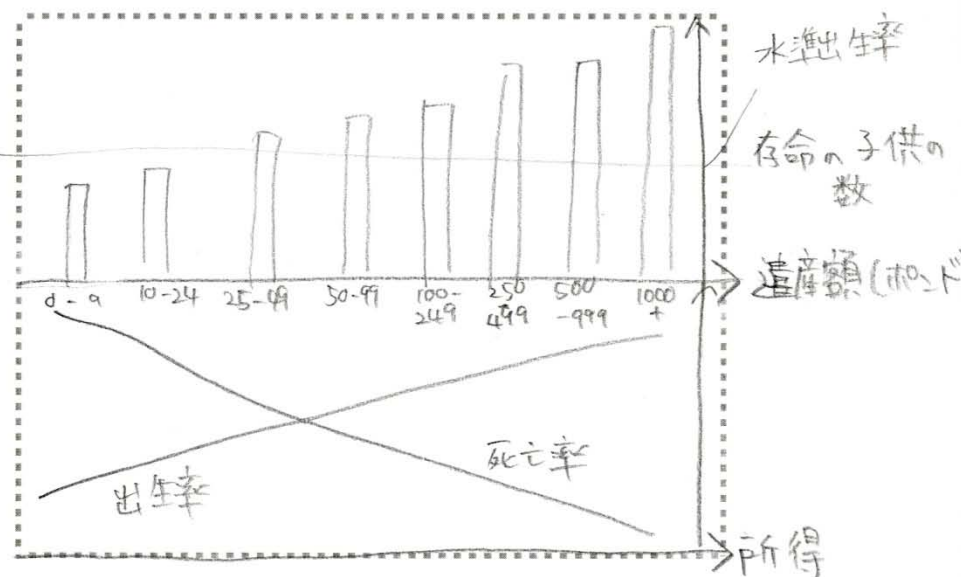
1

と

5

上で解説した以外の2つのデータを選び、2つを関連づけて、何らかの推論を組み立ててください。

所得は遺産額とほぼ同じ意味と
考えてよく、そうすると富裕層は多く
子を生み、その子は死なず親の多額の
遺産を受けついでさらに子を生む。貧困
層は子を少し生むが死んでしまったり、生
まれても親のお金もなく次の子を
生む余裕がないという、正のスパイラルと負のスパイラルが存在することが証明される。



↑ポイントとなる数値等を図示する

データへの批判 T.S.さん

考えられる。

3

と

7

問2 組み合わせで語る

上で解説した以外の2つのデータを選び、2つを関連づけて、何らかの推論を組み立ててください。

データ3とデータ7の産業化以前の時代の平均身長

だけピックアップして比べる。この2つのデータは年代的には同じくらいと考えられる。これを

を見ると、生活の豊かさは身長に影響を与

えているが、データ3を見れば生活水準より

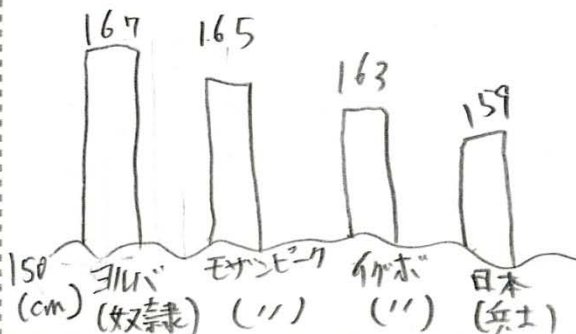
地域のほうが身長に与える影響は大きいことがわかる。アフリカの奴隷より日本の

兵士より身長が高いことからわかる。これは、

その国の豊かさがどうかというよりも、

人種(その先祖からの遺伝の影響)のほうが重要であるといえる。

アフリカ諸国と日本の男性の身長
()内は職業



↑ポイントとなる数値等を図示する

子供の意味まで読む S.M.さん

生む権利がある。

5

と

2

問2 組み合わせで語る

上で解説した以外の2つのデータを選び、2つを関連づけて、何らかの推論を組み立ててください。

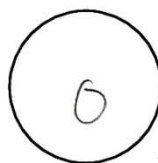
⑤から裕福な家庭では子供が多いと分かる。
しかし、⑧からその傾向は1800年代で最近では
所得が多くとも人口が多いとは限らない。(むしろ逆)
これは、最近では、本能的に動かず自分や
子供の幸せを考えているからの行動である。
裕福な人は自分に資産に見合った子供の数
貧困層は自分に幸せにする子供の数に
なっている。

	1800	2000
西EV	人口 11 所得 24	6 20
北米 オセアニア	1 3	6 25
南米アジア	64 47	53 32
ラテンアメリカ	2 4	8 8
アフリカ	7 9	13 4

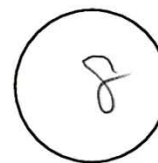
↑ポイントとなる数値等を図示する

奪われた富 R.H.さん

問2 組み合わせで語る



と



上で解説した以外の2つのデータを選び、2つを関連づけて、何らかの推論を組み立ててください。

大いなる分岐において、多くの国が
単独に富を増加させたわけは
なく、他の地域や富を奪ったという
ことが考えられる。繁栄した地域は
西欧、北米、オセアニア、南・東アジアで、没落
した地域はラテンアメリカとアフリカで
思われる。

⑧のデータを所得(%)としたもの

	1800年	2000年
西欧・中・北米	2.2	3.3
北米・オセアニア	3.0	4.2
南・東アジア	1.4	1.7
ラテンアメリカ	2	1
アフリカ	1.3	0.3

↑ポイントとなる数値等を図示する

幸福度格差 I.M.さん

問2 組み合わせで語る

7

と

10

上で解説した以外の2つのデータを選び、2つを関連づけて、何らかの推論を組み立ててください。

幸福度をはかるとき、人は時代による縦の比較はせず、常に近い人と横の比較をする。

→ 幸福は相対的なもの

→ 産業化以前よりも現代の方が格差が小さくなったため、現代の人のほうが、(富める人は幸福度が低く、貧しい人の幸福度は高い。

	測定法1	2	3	4
産業化以前の 貧富の差 " 幸福度の差	3	18	99	183
	V	V	V	V
現代の 貧富の差 " 幸福度の差	1	9	-19	14

産業化以前と同じ指標で↑ポイントとなる数値等を図示する
比べたとき、

幸福度格差 2 M.O.さん

7

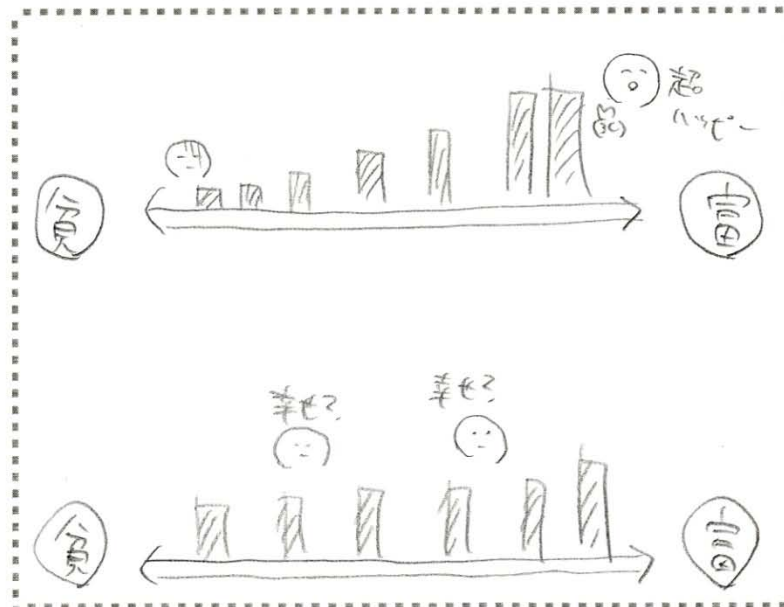
と

10

問2 組み合わせで語る

上で解説した以外の2つのデータを選び、2つを関連づけて、何らかの推論を組み立てて
ください。

⑩の幸福度指数と、⑦の貧富の差、
⑦が「ちぢむほど」⑩の幸福度指数の、
平均をとる前の数値にバラつきが「さる
のど」はないかなーと。



幸福度格差 3 H.M.さん

問2 組み合わせで語る

7

と

10

上で解説した以外の2つのデータを選び、2つを関連づけて、何らかの推論を組み立ててください。

⑩ から 人の幸福感は 周りと比較した

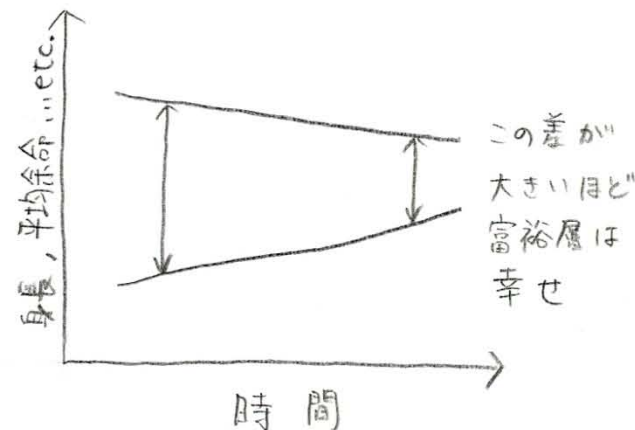
相対的なものであることがわかった。

一方、⑦ から 1つの社会内部では

富裕層と貧困層の差が埋まってきている。

だから、産業革命の前と後では、

後の方が幸福度が低い。



5月14日の講義内容は
著作権保護コンテンツを含むため

OCW-i

のみに公開します。